

## 外国史 I

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考 日文・英米以外

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

現在の歴史教育では、諸地域間の交流を通じた歴史理解が求められており、社会科教員は国家の枠組みを超えた「世界史的な視点」で歴史を理解し、伝達する能力が必要となっている。そこで本講義では、19世紀～20世紀初頭の極東国際関係史を取り扱い、一国史的な枠組みを越えた広範な視点に基づく時代の理解、教員になるために不可欠な歴史知識の習得、「覚える歴史」とは異なる「考える歴史」という思考様式の育成を目的とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	東アジア国際秩序の変容①
3	東アジア国際秩序の変容②
4	東アジア国際秩序の変容③
5	東アジア国際秩序の変容④
6	東アジア国際秩序の変容⑤
7	諸列強のアジア進出①
8	諸列強のアジア進出②
9	諸列強のアジア進出③
10	諸列強のアジア進出④
11	諸列強のアジア進出⑤
12	日清戦争と国際政治①
13	日清戦争と国際政治②
14	日清戦争と国際政治③
15	日清戦争と国際政治④
16	学期末試験

## 【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。  
 ② 本講義を履修するための前提条件はない。 ③ 出席は毎回必ずとる。  
 ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。  
 ※抽選となった場合は、4年次より優先して選抜する。

## 【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

## 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

## 【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

## 外国史Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

高等学校の地理歴史科教員は、多面的な歴史理解能力とともに、歴史事象、とくに近現代史に対するより深い専門的知識が求められる。また、歴史教育をめぐる昨今の社会状況を鑑みた場合、教員自身が「なぜ世界史を学ぶ必要があるのか」について語ることを求められている。そこで、本講義では19世紀ヨーロッパ史を取り扱い、「ヨーロッパ」地域が総体として有する歴史的特性の多面的理解、19世紀ヨーロッパ史に関する専門的知識の習得をめざすとともに、現在との関係で歴史を考察する能力の育成を目的とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ウィーン体制の背景①
3	ウィーン体制の背景②
4	ウィーン体制の背景③
5	ウィーン体制の成立①
6	ウィーン体制の成立②
7	ウィーン体制の成立③
8	イギリスの自由主義①
9	イギリスの自由主義②
10	イギリスの自由主義③
11	1848年革命①
12	1848年革命②
13	1848年革命③
14	ヨーロッパにおける国民国家形成①
15	ヨーロッパにおける国民国家形成②
16	学期末試験

### 【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。しかし、中学校社会科教員を目指す者も、歴史の多面的な理解のために、受講を推奨する。  
 ② 本講義を履修するための前提条件はない。（外国史Ⅰを未履修でも受講できる）  
 ③ 出席は毎回必ずとる。 ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。  
 ※抽選となった場合は、高校地歴科免許取得希望者より優先して選抜する。

### 【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

### 【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

## 憲法 I

担当教員 儀部 和歌子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

日本国憲法の概要を、具体的な事例を通して理解することを目標とします。現在、日本国憲法の改正は現実味を帯びており、憲法に関しても様々な主張がなされています。しかし、実際は、憲法の基本を理解しないままの主張も多くなされていると感じています。そこでみなさんには、「憲法とは何か」、また「憲法に関する基本的なことは何か」を正確に理解していただいたうえで、日本国憲法の改正という現実の問題についてご自身で判断していただけるよう、新聞記事や書籍等、できるだけ多くの情報を提供したいと考えています。また、タイムリーな社会問題についてもなるべく同時期に取り上げ、憲法を使って考える練習をしていきたいと考えています。

### 【授業の展開計画】

第 1 回	ガイダンス	第 2 1 回	職業選択の自由
第 2 回	憲法を取り巻く現状	第 2 2 回	人間らしく生きる権利
第 3 回	憲法とは何か	第 2 3 回	教育を受ける権利
第 4 回	いわゆる国民投票法について	第 2 4 回	公務員の表現の自由と労働基本権
第 5 回	公権力のイメージ① (映画視聴)	第 2 5 回	被疑者・被告人の自由+裁判員裁判
第 6 回	公権力のイメージ② (同上)	第 2 6 回	統治機構①
第 7 回	日本国憲法と明治憲法とコスタリカ憲法	第 2 7 回	統治機構②
第 8 回	日本憲法の基本原理①基本的人権の尊重	第 2 8 回	復習
第 9 回	基本的人権の歴史	第 2 9 回	復習
第 1 0 回	日本国憲法の基本原理②平和主義 (1)	第 3 0 回	試験
第 1 1 回	日本国憲法の基本原理②平和主義 (2)		
第 1 2 回	日本国憲法の基本原理③国民主権+三原理の関係		
第 1 3 回	人権は誰に対して保障されているのか		
第 1 4 回	人権を制約することは許されるか		
第 1 5 回	前期復習 (小テスト)		
第 1 6 回	日本国憲法に書かれていない人権—新しい人権		
第 1 7 回	不合理な差別とは		
第 1 8 回	思想良心の自由		
第 1 9 回	表現の自由①		
第 2 0 回	表現の自由②		

### 【履修上の注意事項】

毎時間講義終了後に講義の感想を書いていただきます (出欠点検)。3分の1以上欠席した場合、単位を認定しません。

### 【評価方法】

前期末及び後期明けに行う小テスト、後期末に行う論述試験の点数を基本として、これに出席状況を加味して評価します。

### 【テキスト】

教科書は使用しません (講義の際にプリントを配布する予定)。

### 【参考文献】

「勇気の源はなんですか？」 (伊藤千尋・憲法9条・メッセージプロジェクト) / 「高校生からわかる日本国憲法の論点」 (伊藤真著・株式会社トランスビュー) / 「憲法入門」 (伊藤正己著・有斐閣双書)

## 自然地理学概論

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・英米言語学科以外対象

### 【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面では、さまざまな自然現象がみられ、私達の生活は自然現象から大きな影響を受けている。その自然現象も地球の歴史を通して変化している。地球の表面にみられる気候、土、地形、水について、私達の住んでいる沖縄からみることによって、自然の認識の仕方について考える。

### 【授業の展開計画】

- 1 自然地理学とは？地形のでき方
- 2 サンゴ礁を育む島々の気候
- 3 島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち
- 4 海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘
- 5 溶けゆく島々（石灰岩の溶食）
- 6 岩石の風化
- 7 溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト
- 8 隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ
- 9 風化物質の移動（地すべり、山崩れ）
- 10 島尻層群泥岩の丘陵

### 【履修上の注意事項】

講義のまとめ、講義に対する質問を書かせます。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行う。

### 【評価方法】

成績評価は期末試験、出席点により行い、それぞれ70点、30点とする。

### 【テキスト】

使用しない（以下参考文献）町田洋・太田陽子・河名俊男・森脇広・長岡伸治（2001）：『日本の地形7 九州・南西諸島』東京大学出版会

### 【参考文献】

河名俊男（1988）『琉球列島の地形』新星図書出版/氏家宏編（1990）『沖縄の自然—地形と地質—』ひるぎ社/中村和夫・氏家宏・池原貞雄・田川日出夫・堀信行（1996）『日本の自然 地域編8 南の島々』岩波書店

## 自然地理学概論

担当教員 -上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 自然地理学特講

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化対象

### 【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面はさまざまな姿をしており、その姿は地球の歴史を通して変貌してきた。現在私達が目の前にする地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのか、地面の姿のできかたを考える。

### 【授業の展開計画】

- 1 河川の作用
- 2 土壌侵食
- 3 河谷地形
- 4 河床堆積物
- 5 河岸段丘
- 6 扇状地
- 7 波の作用
- 8 海岸地形
- 9 海食崖の後退
- 10 波食棚表面の変形

### 【履修上の注意事項】

冬休みにレポートを課す。レポートのテーマは冬休みの前の授業時間に知らせる。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行う。

### 【評価方法】

成績評価は期末試験、課題レポート、出席点により行い、それぞれ50点、30点、20点とする。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献】

町田 貞 (1984) : 『地形学』 大明堂、河名俊男 (1988) : 『琉球列島の地形』 新星図書出版、佐藤 久・町田 洋 (1990) : 『地形学』 朝倉書店

## 自然地理学特講

担当教員 上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 情報通信ネットワーク実習

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 実験実習

単位数 1

### 【授業のねらい】

産業社会における情報通信ネットワークの技術基盤を理解し、実習を通してネットワークシステムの構築と運用と保守管理等について理解を深める。

### 【授業の展開計画】

実習の内容としては、TCP/IPによるインターネット並びにイントラネット接続、ネットワーク上への情報発信、アップロード等のためのサーバー接続と情報セキュリティ設定等を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・演習環境の準備
2	Linux OSのインストール・ストレージ管理
3	ネットワークシステム概説
4	ネットワークインタフェースの確認と設定
5	Webサーバの動作確認・リモート接続
6	DNSサーバ概説
7	DNSサーバの構築
8	Webサーバ概説
9	Webシステムのアクセス制御
10	バーチャルホストの構築
11	メールサーバ概説
12	メールサーバの構築
13	メールの送受信
14	ネットワークセキュリティ
15	総まとめ
16	総合演習・期末試験

### 【履修上の注意事項】

CentOS (Linux) を使用します (Windowsではありません)。「情報通信ネットワーク論」を履修した者の受講が望ましい。

### 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

### 【テキスト】

「Linuxサーバー構築標準教科書」エルピーアイジャパン (LPI-Japan)

### 【参考文献】

「Linux標準教科書」エルピーアイジャパン (LPI-Japan)  
 アンク「TCP/IPの絵本」翔泳社 (2003)  
 アンク「UNIXの絵本」翔泳社 (2006)



## 人文地理学概論

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人文地理学は、人間によって地表面に刻印された様々な空間的事象を扱う学問である。本講義では、分布・位置・空間・場所などの地理学の基本概念を踏まえて、地図と人文地理学の関係を検討する。とくに地形図を中心とする正しい読み取り方や読図の方法を、新旧の地図を比べながら身につけることを目標とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	人文地理学の歴史
3	人文地理学の方法
4	地図の基本①－地形図の性格－
5	地図の基本②－地形図の読解－
6	地図の読図①－農村地域－
7	地図の読図②－都市地域－
8	地域と景観①－村落景観の変容－
9	地域と景観②－都市景観の形成－
10	地域と景観③－景観形成のポリティクス－
11	地域と景観④－巡検－
12	空間と社会①－エスニシティの特性－
13	空間と社会②－米軍基地と地域社会の変容－
14	空間と政治③－戦後沖縄の都市空間－
15	空間と政治④－巡検－
16	試験

## 【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に出席すること。出席状況と課題の提出を重視するので注意すること。

## 【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に評価する。

## 【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

## 【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

## 人文地理学特講

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人文地理学は、自然と人間の関わりを検証する総合的な学問である。本講義では、文化生態・文化景観・文化伝播などの文化地理学の領域と、景観復原の手法による「過去の地理」を検証する歴史地理学の領域から、人文地理学の見方・考え方を検討する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人文地理学の基本概念
2	文化生態①－環境と人間－
3	文化生態②－環境の改変－
4	文化生態③－環境改変者としての人間－
5	文化景観①－文化景観の形成と変容－
6	文化景観②－文化景観の構成要素－
7	文化景観③－心の中の風景－
8	文化景観④－民家・耕地－
9	文化景観⑤－巡検－
10	文化と風土①－風土の概念－
11	文化と風土②－場所と空間－
12	文化と風土③－日本の風土論－
13	文化と歴史空間①－江戸・東京の歴史空間－
14	文化と歴史空間②－首里・那覇の歴史空間－
15	文化と歴史空間③－巡検－
16	試験

## 【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に出席すること。出席状況と課題点を重視するので注意すること。

## 【評価方法】

期末試験と課題点、出席点を総合して評価する。

## 【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

## 【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

## 地誌 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

地誌学は、直接的に個々の地域をその研究対象とし、その地域構造を明らかにして、その構成に関する諸法則、傾向を明らかにすることを目的とする。その研究方法として、地域的に相違あることによって地域区分を行い、二つ以上の地域についての比較が必要になってくる。地誌 I では、この立場からの研究・調査方法について説明したあと、日本各地を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地誌とはなにか
2	北海道①
3	北海道②
4	東北地方①
5	東北地方②
6	関東地方①
7	関東地方②
8	中部地方①
9	中部地方②
10	近畿地方①
11	近畿地方②
12	中国四国地方①
13	中国四国地方②
14	九州地方①
15	九州地方②
16	テスト

## 【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【日文・英米以外対象】

※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目

## 【評価方法】

成績評価は、数回のレポートの提出と出席および試験によって総合的に判断する

## 【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円

## 【参考文献】

立正大学地理学教室編(2007)『日本の地誌』古今書院 3000円、  
大明堂編集部「新日本地誌ゼミナール」シリーズ、  
朝倉書店「日本の地誌」シリーズ

## 地誌Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

地誌学は系統地理学と並んで地理学を形づくる重要な部門の一つである。本講義では、世界各地の地誌について学習する。必要に応じて、ビデオ、パワーポインターの利用、参考文献の紹介、資料プリントの配布も適宜行う。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	世界の地理思想のあゆみ(地理と地図の歴史)
2	アジア州①
3	アジア州②
4	ヨーロッパ州①
5	ヨーロッパ州②
6	アフリカ州①
7	アフリカ州②
8	北アメリカ州①
9	北アメリカ州②
10	南アメリカ州①
11	南アメリカ州②
12	オセアニア州①
13	オセアニア州②
14	世界各地の人々の生活と環境①
15	世界各地の人々の生活と環境②
16	試験

## 【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【法律学科・地域行政学科・地域環境政策学科・経済学科・社会文化学科対象】

※地誌Ⅱは高校地歴科免許状必修科目である。

## 【評価方法】

複数回のレポート提出および出席、試験によって総合的に判断する。なお、追試験、再試験は一切行わない。

## 【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1575円、帝国書院『新詳資料地理の研究』980円  
講義の中で適宜紹介する。

## 【参考文献】

田辺裕監修(1997)『図説大百科世界地理』、朝倉書店

## 哲学概論

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

この科目は、教職を目指す人のために、教科(中学社会科、高校公民)に関する専門的知識を授けることを目的としています(ただし、卒業単位に組み入れることができます)。とくに高校で倫理を教える人を念頭に、授業をすすめます。内容は欧米の思想史を中心とし、前期に古代ギリシア思想からルネサンスまでを、後期には近代思想から現代思想を中心に行ないます。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義概要、哲学とは何か	17	前期レポートの講評
2	レポートについて	18	近代西洋思想の概要
3	東洋思想と西洋思想の違い	19	デカルト
4	西洋における思想の始まり	20	スピノザ
5	イオニア自然哲学	21	ライプニッツ
6	原子論	22	F. ベーコン
7	ソフィスト	23	ホッブズ
8	ソクラテス	24	J. ロック
9	プラトン	25	ヒューム
10	アリストテレス	26	ルソー
11	ヘレニズム期の哲学	27	カント
12	ユダヤ教とキリスト教	28	ヘーゲル
13	教父哲学	29	マルクス
14	スコラ哲学	30	フロイト
15	ルネサンス期の思想	31	実存主義 　　まとめ、後期レポート提出
16	まとめ、前期レポート提出		

### 【履修上の注意事項】

出席はとりませんが、私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。出席の際には、積極的な発言、質問を期待します。

### 【評価方法】

成績は、前期と後期のレポートを合計して評価します。レポートの採点基準は、教職科目にふさわしく、厳しく行ないます。レポート作成上の諸注意は、2回目の講義で行いますので、それに従ってください。レポート作成上の決まりを守らないレポートを提出しても、不可をつけます。

### 【テキスト】

とくに指定はしません。

### 【参考文献】

## 日本史

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考 日本文化学科・英米言語学科以外の全学科対象

## 【授業のねらい】

原始・古代から現代まで通史的に講義を行うが、その時代の象徴的な事件や人物などをテーマ設定する。講義は資料や図版・漫画・クイズなどを取り入れたビジュアルな自作のプリントで行い、テーマ素材の教材化の仕方や教え方に重点を置く。同時に、歴史に興味・関心を持たせることやテーマの時代背景や歴史的意義を理解させることも目標とする。歴史の流れやその時代の基本的な歴史事項や用語を理解させると同時に教材化の視点や方法を学ばせる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	ガイダンス
2	原始・古代①	18	近代①
3	原始・古代②	19	近代②
4	原始・古代③	20	近代③
5	中世①	21	近代④
6	中世②	22	近代⑤
7	中世③	23	近代⑥
8	中世④	24	近代⑦
9	中世⑤	25	現代①
10	近世①	26	現代②
11	近世②	27	現代③
12	近世③	28	現代④
13	近世④	29	現代⑤
14	近世⑤	30	後期まとめ
15	近世⑥	31	テスト
16	前期まとめ		

## 【履修上の注意事項】

教職課程を受講する者のみが履修できる。

## 【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 10点  
 ②レポート(歴史人物の教え方について、前期・後期それぞれ一回) 40点  
 ③テスト(日本史の基礎・基本用語の記述式、前期・後期それぞれ一回) 50点  
 ①+②+③=100点満点で評価する。

## 【テキスト】

- ①テキストとして、毎回5枚前後のプリントを配布する。  
 ②「生きた教材」である実物資料を原則として毎回使用する。

## 【参考文献】

参考文献はテキストのなかに表記する。

## 法学概論

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

### 【授業のねらい】

わたしたちは、法の網の目に囲まれて生活している。法は、社会における人々の行為規範として機能しており、基本的人権の尊重や統治機構の規制にとどまらず、売買・消費貸借の契約遵守から、夫婦・親子関係の保護や人の生死にかかわる問題、そして違法行為に対する制裁など、多岐にわたる。講義は、現代の法にかかわる領域全般にわたって、できるだけ具体的事例に即しておこなう。受講生が、法の一般的な目的・機能を理解することを目標とし、そして身の回りに生起する具体的問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

### 【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

#### <前期>

1. 登録確認および導入：法現象
2. 六法の使い方：大学入学と単位
3. 社会規範：法と道德の異同
4. 法の存在形式：法源論と分類論
5. 私的自治：契約自由、法律行為
6. 契約の効力：適法性と無効・取消
7. 不法行為の成立：過失責任論
8. 不法行為の効果：損害賠償論
9. 婚姻：成立と夫婦財産
10. 親子：子の分類、親権
11. 離婚：成立と財産、子への配慮
12. 相続：遺言自由と遺産分割
13. 消費者保護：消費者契約法
14. 労働法：労働契約、労働基準
15. 前期試験

#### <後期>

1. 前期試験講評
2. 犯罪と刑罰：刑法の機能、罪刑法定主義
3. 犯罪と刑罰：「悪い行為」、民法との違い
4. 犯罪と刑罰：交通事故の可罰性
5. 立法府：国会、選挙、法定立
6. 行政府：議院内閣制、法執行
7. 司法府：裁判制度、法の番人
8. 憲法原則：統治章典、権利章典
9. 基本的人権：情報とプライバシー
10. 基本的人権：幸福追求権と平等権
11. 国際関係：国連と国際法の基本
12. 国際関係：条約と国内法
13. 国際紛争と国際平和
14. IT社会の法：電子消費者契約など
15. まとめ：法と正義
16. 後期試験

### 【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

### 【評価方法】

評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。前期・後期の期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。試験得点調整が必要な場合、出席を考慮する（1割程度）。

### 【テキスト】

講義にはテキストおよび六法（法令集）の2冊が必要である。開講時に紹介する。

### 【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、稲垣明博『生活と法律—生命の誕生から終焉まで【改訂版】』（泉文社）、大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門【第3版】』（岩波書店)

## マルチメディア実習

担当教員 中西 利文

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本実習では、次の3点により、CG制作およびグラフィックデザインの基礎を身につける事を目的とする。

1. ドロー系とペイント系の2種類のグラフィックソフトの基本操作の習得
2. イメージを具現化するためのプロセスの実践
3. 課題制作によるCG作成スキルの向上

制作したコンテンツを受講者全員で評価することにより、その学習効果を議論・検討する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ペイント系ソフトの基本操作について (1)
3	ペイント系ソフトの基本操作について (2)
4	ペイント系ソフトの基本操作について (3)
5	ペイント系ソフトによる画像加工実習 (1)
6	ペイント系ソフトによる画像加工実習 (2)
7	ドロー系ソフトの基本操作について (1)
8	ドロー系ソフトの基本操作について (2)
9	ドロー系ソフトの基本操作について (3)
10	ドロー系ソフトによる画像作成実習 (1)
11	ドロー系ソフトによる画像作成実習 (2)
12	課題制作 (1)
13	課題制作 (2)
14	課題制作 (3)
15	プレゼンテーション、総括
16	

## 【履修上の注意事項】

この実習は、教職課程「情報」の必修科目である。マルチメディア論を履修した者のみ登録を受け付ける。教職履修者は必ず、配当年次に受講すること。

## 【評価方法】

基本的に欠席は認めない。作成したマルチメディアコンテンツのプレゼンテーション(2回)と出席状況を総合的に判断し評価する。

## 【テキスト】

配布資料を使用予定

## 【参考文献】

開講時に指定する。



## 倫理学概論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

## 【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して問題を多面的かつ根底的に検討する事をめざすものなので、この講義でも受講者それぞれが書いたり話したり、グループで調査・議論したりといった形で「ともに考える」ことを中核に据える。倫理学の基礎理論と応用倫理学(特に生命倫理学、ビジネス倫理学)の諸問題を素材に、倫理学上の問題に自力でとりくめるような能力の涵養をめざす(授業への実質的で主体的な参加が必要)。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録させない(名簿から削除)。公欠で出席できない場合はあらかじめメール(mkoyanagi@okiu.ac.jp)で相談すること。★

## 【授業の展開計画】

基本としては、毎回、テキストについて分担でレジュメを作成しておこなう個人発表を中心に、全体で質疑応答・議論し、全員が小レポートを授業中に作成する(テキスト以外のテーマもいくつか扱う)。担当者は疑問点などをみずから十分調査検討してレジュメを作成。発表にコメントをつける特定質問者も全員に割り振る。必要に応じて小グループで議論・調査して結論をまとめ発表し、他のグループや講義担当者と質疑応答・討論する方式も採用。以下の項目は人数などとの関係で変更・入替をおこなうこともある。座席は指定する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション=欠席者は登録削除	17	なぜ殺してはいけないのか3
2	ファイル作成、分担決定、グループ編成	18	人間の尊厳・自己決定・隣人愛 /3名
3	哲学とは何か 鷲田清一の場合	19	脳死・臓器移植の倫理学的問題1 /3名
4	倫理と道徳	20	安楽死・尊厳死の倫理学的問題 /2名
5	基礎理論1 義務論と功利主義 /3名	21	脳死・臓器移植の倫理学的問題2
6	基礎理論2 徳倫理学の源泉 /3名	22	先端医療の倫理学的問題 /3名
7	基礎理論3 徳倫理学の現代的展開 /3名	23	障害をどのように捉えるか1 /2名
8	基礎理論4 公正さを巡る議論 /4名	24	障害をどのように捉えるか2
9	以上、基礎的な理論	25	以上、生命倫理学
10	なぜ殺してはいけないのか1	26	ビジネス倫理学1 問題・原理・理論/3名
11	生命倫理学の成立 /3名	27	ビジネス倫理学2 CSRとステイクホルダー
12	QOLとインフォームド・コンセント /3名	28	自己決定の現状と課題
13	ケアの倫理 /3名	29	隣人愛 よきサマリヤ人のたとえ(1)
14	生のはじまりとパーソン論 /2名	30	隣人愛 よきサマリヤ人のたとえ(2)
15	パーソン論の問題点 /2名	31	まとめのレポート(持ち込み不可)
16	なぜ殺してはいけないのか2		

## 【履修上の注意事項】

第1回のオリエンテーションに必ず出席すること。出席しなければ登録させない(名簿から削除)。

\*授業への実質的で積極的な参加を強く求める。\*自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。\*レポートやコメントを添付メールで提出することも求める。

## 【評価方法】

以下の配点内で評価する(配点を変更する際は、授業中にその旨、告知する)。①個人発表20点 ②特定質問10点 ③小レポート10点 ④発言記録票20点 ⑤あらかじめテーマを指示して授業中に作成させるまとめのレポート(持ち込み不可)20点 ⑥その他(グループディスカッションなど、授業の展開や受講者数に応じて決める)20点 \*個人発表・特定質問は単位取得の必要条件。\*私語や途中入退室など、授業へのネガティブな関わりは、ネガティブに評価する。\*欠席の扱いは学則の通り。

## 【テキスト】

長友敬一『現代の倫理的問題』ナカニシヤ出版(2600円税別)

## 【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

## 倫理学概論

担当教員 大城 信哉

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

## 【授業のねらい】

本講座は教職を志す人を対象に、倫理学の輪郭を伝えることを目的としています。教育と倫理と言うとよく思い浮かべられるのが「道德教育の必要」ですが、教職に就く人が倫理学を学ぶ必要があるのはこのような理由によるものではありません。道德教育の必要が説かれるときには大抵何が道徳的であるかはすでに判っている前提でそれを児童生徒に教え込むことを目指しているのに対し、倫理学を学ぶのはそのような思い込みを再検討することだからです。本講座では主として前半に倫理学の歴史を紹介し、後半で現代の問題に即して具体的な事例を検討します。予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲のある人が集まることを期待しています。

## 【授業の展開計画】

予定は以下のとおりですが、第1回の合意作りのときに、受講者諸君がどのような問題を取り上げてほしいと思っているか教えてもらえたら、ある程度まではそれに応じます。希望があればぜひ教えてほしいと思います。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	17	教育と政治の関係について考えます。
2	倫理という語の意味について考えます。	18	地域と国家との関係について考えてみます。
3	倫理の漢字の意味についても考えてみます。	19	国際関係について考えてみます。
4	ソクラテスとプラトンの考えを紹介します。	20	自由と権力との関係について考えてみます。
5	アリストテレスの倫理学を紹介します。	21	経済活動について考えてみます。
6	18世紀のカントの考えを紹介します。	22	生産と消費について考えてみます。
7	カントの考えをさらに詳しく考えてみます。	23	経済活動と環境について考えてみます。
8	功利主義の思想について考えます。	24	医療の倫理について考えてみます。
9	功利主義的な自由主義について考える。	25	患者の自己決定について考えてみます。
10	カント説と功利主義の対立点を考えます。	26	パターナリズムについて考えてみます。
11	うへの対立点について具体的に検討します。	27	教育の倫理学を考えてみます。
12	政治と自由について考えます。	28	人間であることの意味を考えてみます。
13	経済と発展、経済と自由について考えます。	29	世代間の違いの意味について考えてみます。
14	徳について考えます。	30	どのような理解が得られたのでしょうか。
15	共同体の意義について考えます。	31	最後に受講者諸君の話を聞いてみましょう。
16	あらためて正義について考えます。		

## 【履修上の注意事項】

受講者の人数にもよりますが、こちらからも皆さんに質問します。活発な議論となることを望みます。評価方法については厳正であるように努めますが、講義の時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにもぜひ講義には積極的に参加してください。

## 【評価方法】

最終回のあとにレポートを提出してもらうつもりですが、長丁場なので適宜小テストもおこなおうと考えています。評価の方法についても第1回で他の希望が出たら考慮しますので、考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので、それ自体を取りたてて高く評価するものではありません。

## 【テキスト】

使用しません。資料は講義中に適宜配布します。

## 【参考文献】

必要に応じて教室で指示します。